

反改憲運動

通信 第3期

1部 200円
2008. 3. 12 No. 20

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-1-18 近江ビル4階
Tel. & Fax. : 03-5275-5989
E-Mail : han-kaiken@alt-movements.org
Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>
年間定期購読料 4,000 円 (2007. 6~2008. 5)
郵便振替 00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

軍隊は「国民」を守らない! — イージス艦「あたご」・海のひき逃げ事件

2月19日、海上自衛隊の最新鋭イージス艦「あたご」(7,750トン)が千葉県勝浦市のマグロはえ縄漁船「清徳丸」(7.3トン)と衝突、ぶつけられたマグロ漁船は真二つ、冬の海に投げ出された乗組員2人は行方不明という悲惨な事故がおきた。

この事故でも、防衛省およびそのトップである防衛相の事実を隠蔽し、責任のがれをする体質が、全面的に露呈されている。03年当時から、インド洋での海上自衛隊の補給艦が米補給艦に給油した給油量を少なく報告している誤りを知りながら、事実を隠蔽し続けた。嘘の報告で、局面を政治的にきりぬけたのは、石破防衛庁長官(当時)と、福田康夫(官房長官/当時)であった。

今回も福田(首相)と石破のコンビである。海上保安庁に連絡しないで行われた幕僚長や石破(防衛相)の、直後の乗組員事情聴取の件、「連絡していた」との大嘘がバレた事をつたえる2月29日の『朝日新聞』の社説(「防衛省の混迷 首相が最高指揮官だ」)は、こう主張している。

「事故当日に海上自衛隊は、事故直前の当直士官である航海長をヘリコプターで防衛省に呼んで事情を聴いていた。今回の事故では、自衛隊は『被疑者』である。捜査にあたる海上保安庁に当然すべき事前連絡をしなかったのは問題だ。／その事情聴取には石破氏が直接乗り出していたのに、当初その事実は伏せられた。防衛相には聴取した内容を、なぜか後で報告したことにしていたのだ。／大臣室での事情聴取に立ち会っていた増田好平事務次官は、『(聴取が)適切かどうかの認識もなかった』と述べている。そのうえ、自分は記録を取っていないので大臣室での聴取内容は『覚えていない』と平然と言った。……さまざまな要因が重なり、防衛省はいま混乱の極みにある。／こうなると、防衛省のだれを信じて事実説明を任せたらよいのか分からなくなる」。

増田事務次官の、記録を取っていないので内容は覚えていないという発言は、この発言の翌日、こうひっくりかえる。「事務方がメモを作成していた、海保にファックスで送った」。

この社説は、自衛隊の最高指揮官福田首相の、この信用できない防衛省に事実説明をあずけているがととき、まるでひとごとのような発言を批判している。

今回は、石破防衛相を含めた防衛省のトップたちが、こぞって隠蔽工作に動きまわっている事実が、誰の目にも明らかになった。こんな奴らの誰かを信じてよいわけがない。福田首相が最高指揮官だということは最高責任者であるということだ。彼のこの間のそらっとボけた発言のどこに責任感があるというのか。

政府・防衛省側の嘘は、勝手な事情聴取問題だけではなく、漁船を発見したのは「2分前」と事故当日発表しておきながら、後に「12分前」に変更、からはじまり、次に「2分前に緑灯」、赤灯は未確認という、イージス艦の回避義務がなかったような発言を、後に「12分前に赤灯」を確認しているという事実を認める方向へ転ずる、さらに先にふれた事情聴取問題についての海上保安庁への通知をめぐるいくつもの嘘へというふうに、積みあげられてきているのだ。

責任回避のための嘘は、軍隊は当然ついてもいい、と彼等は考えているのだ。事故発生直後、手段はいくらでもあったのにイージス艦側は、すぐ2人の救出のための活動にとりかかっていない(実質的な救助活動は、なんと1時間40分後にスタート)。いま、「艦内で酒宴」で気づかなかったのでは、という疑惑までがとりざたされだしている。しかし私たちは、これをイージス艦の特別の体質と考えるべきではない。30人を殺した潜水艦「なだしお」の件(1988年)をも想起しよう。〈軍隊は「国民」を守るものだ〉というのが最大の嘘(ホラ)なのである。(天野恵一／事務局)

鋼板をまとい疾走する重量物である自動車は、生身の歩行者にとって、その存在自体が暴力である、と思う。私も日常的に車を運転するが、その自覚はある。▶強化プラスチック製の漁船にとって、千倍もの重量をもつ鋼鉄製イージス艦は、同様に危険で暴力的な存在だろう。船舶銀座と言われる海域でイージス艦が自動操舵とは、歩行者横断中の数寄屋橋交差点に、車が自動操縦でつっこむようなものではないか。▶沖縄をはじ

憲 喧 嘩

め米軍基地が居座る地域では、米兵による暴力行為がこのかんも次から次へと起こっている。自衛隊にしろ、米軍にしろ、軍隊それ自体が暴力的存在であることに疑いはない。そして兵士の暴力のうち、性暴力は圧倒的に男から女へのものだ。男が女に対して暴力的存在である、ということも認めざるを得ない。▶自らの持つ暴力性を問いながら、制度化された強大な暴力を解体するための闘いを続けたい。(なすび)

3月23日・集会「格差・貧困・戦争と憲法」にご参加ください

市民意見広告運動と市民の意見30の会・東京共催の集会が3月23日(日)に開かれます。講師は憲法学者で9条の会呼びかけ人でもある奥平康弘さんとジャーナリストの堤未果さんです。奥平さんには「自衛隊海外派兵恒久法と解釈改憲」、堤さんには「イラク戦争下の貧困大国アメリカ」というテーマで講演をしていただきます。

奥平さんは、2004年7月の講演会「憲法九条、今こそ旬」で9条を持つ意義について次の主旨の発言をされています。

「9条の平和主義の思想は『国民主権』・『基本的人権尊重』と相互にリンクしながら『一つのシステム』として相互補完的な関係のもと日本国憲法を形成している」

福田首相は、施政方針演説で自衛隊の海外派兵恒久法の検討を明らかにし、民主党へも働きかけをしています。その民主党は「国連による承認」などという条件つきでこれを認める方針を明らかにしています。この法律が成立すれば、日本が国際紛争に軍事参加することをくい止めてきた集団的自衛権行使へのブレーキがはずされ、自衛隊は世界のどこでも戦闘に参加できることになります。それはいう

までもなく武力による国際紛争の解決を禁じる9条の空文化といえるでしょう。そのとき相互補完関係にある国民主権・基本的人権尊重の解釈はどうなるのでしょうか。奥平さんの講演を聞いて考えたいと思います。

またそうなった場合の日本はどんな国になるのでしょうか？ それは、堤さんがイラク戦争下のアメリカ社会を例にとって解き明かしてくれるでしょう。日本の政治が増大する格差・貧困の是正に立ち向かわないとしたら、堤さんの著書にある米国社会は日本の近未来の姿でしょう。しかし私たちには政治の方向を変える力があるはずで、意見広告への賛同をはじめ私たちがそういう未来を拒否する姿勢を持ち続けることが今重要なのです。皆さんのご参加をお待ちしています。(北原博子／市民意見広告運動事務局)

●日時：3月23日(日) 13:00 開場／13:30 開始

●場所：東京しごとセンター地下講堂(JR線飯田橋駅東口徒歩7分、ホテルメトロポリタンエドモント隣)

●資料代：800円

報告◆「9条世界会議」の成功へ！ 公開シンポジウム

2月16日、5月4日から6日まで幕張メッセを主会場として大阪、広島、仙台でも開催される「9条世界会議」の協賛企画として、公開シンポジウム「9条を世界へ 世界から」が東京・千駄ヶ谷の日本青年館国際会議場で開催され、200人が参加した。

シンポジウムのコーディネーターの川崎哲さん(9条世界会議事務局、ピースボート共同代表)は、「1990年以後『国際貢献』論が広がる中で、9条を後ろ向きに捉える傾向にあった。しかしその傾向はここ数年の動きによって変化しつつあり、せめぎあい状況になっている。楽観はできないが、手さぐりで前へ進んでいくという段階ではないか」と語った。パネリストは在日の外国人の3人で、ジャン・ユンカーマンさん(映画監督)、朴慶南さん(作家、エッセイスト)、アーサー・ビナードさん(詩人)。

ユンカーマンさんは「私が映画『日本国憲法』を作った当時は絶望的な情勢だった。護憲の立場の人びとの論議の水準は、改憲派に比べて低かった。しかしこの間、護憲派の議論の内容が鋭いものになり、むしろ改憲派の議論の中身がなくなった。でも護憲論は『理想論』という決めつけ方が今でも横行している。実際には『護憲』論の方が現実的であることは、イラク戦争によっても明らかだ」「戦争の問題を語るとき一番危ないのは北東アジアではないか。北朝鮮の核をめぐる6カ

国協議が行われてきたが、この6カ国の軍事費は21世紀になってから50%増えている。この6カ国で世界の軍事費の60%を占める。日本の9条はそうした国際関係の中に置かれているのだ」と語った。朴慶南さんは「日本の加害の現実から9条が生まれたことを忘れるべきではない」と主張した。

アーサー・ビナードさんは、「アメリカは第2次大戦後、数えきれないほどの戦争をしてきたが、そのいずれもすべて米国憲法違反だ。アメリカ憲法はすばらしいものだが『古典文学』のようなものだ。古典文学とは誰もがほめるが誰も読んではいない。しかし古典である強みとは、いじれないということだ。改憲派は日本の憲法が『古典』になることを恐れている。百年たったらいじることはできない。日本の権力者にとっても米国の権力者にとっても読んでほしくない文書の代表がそれぞれの憲法だ」と語った。討論の中では「9条のどのような中身を現実の運動として発信するのか」という問いも出され、それに対しては米軍基地の問題や北東アジア平和地域構想の具体化などが提起された。

またこの公開シンポをはさんで2月16日から17日にかけて、「第11回許すな！ 憲法改悪・市民運動全国交流集会」が開催され、北海道から沖縄まで全国24都道府県から130人が集まり、「派兵恒久法」の阻止や9条世界会議の成功のために討論した。(国富建治／事務局)

事務局から～

◆ぜひ定期購読を！ 年間定期購読費用(第3期：2007年6月～2008年5月／月2回発行／24号分)は4000円です。郵便振替口座をご利用ください。

◆本紙事務局(事務所)にはスタッフが常駐していません。事務局への連絡や購読申込み等はファクシミリか電子メール、お葉書が確実です。

報告◆沖縄の怒りと米軍再編 ——「紀元節・日の丸・君が代」とたたかう2・11京都集会

米軍空母艦載機部隊の岩国移駐をめぐる岩国市長選で移駐容認派の候補者に僅差で敗れた前日の悔しさが残る08年2月11日、「紀元節・日の丸・君が代」とたたかう2・11京都集会を京都市内の京都会館でひらき、200人が参加。集会とデモで、「建国記念の日（紀元節）」を糾弾するとともに、卒入学式での「日の丸・君が代」の強制や日米軍事再編の反対を訴えた。

主催は、府連や解放共闘、市民団体らで組織する天皇制の強化を許さない京都実行委員会。集会では、同実行委員会代表世話人である大野昭則・府連委員長が、「天皇制を問う集会を息長く続けてきた。少数といえども、藤村の『夜明け前』を思い出してほしい。一番暗いときは夜明け前。苦しい時代のつぎには必ず、われわれの時代がくる」と地味な闘いであっても、持続をと参加者に訴えた。

集会は、「沖縄の怒りと米軍再編、そして靖国訴訟のいま——国会の動向から」と題して沖縄とともに基地撤去をめざす関西連絡会の服部良一さんが講演。服部さんは、まず前日の岩国市長選の敗因を分析するとともに、このまま岩国の米軍再編を許すと沖縄の嘉手納基地以上の規模になると指摘。沖縄の辺野古での新基地建設など全国各地で強行されている日米軍事再編の動きに抗する戦いを訴えた。

また、服部さんは、昨年9月、沖縄県民の怒りが爆発した高校歴史教科書の沖縄戦「集団自決（強制集団死）」に関する検定問題も、沖縄戦「集団自決」からの「日本軍の命令削除」は、単に歴史の歪曲というレベルを超えて、きわめて政治・軍事に直結した問題であり、米軍再編・基地強化など「戦争をする国づくり」を推進していくうえで「軍隊は住民を守らない、自国軍隊が自国民を殺害」という沖縄戦の歴史を改ざんし、軍隊を支える国民意識の醸成を図ろうとするもの。私たちは、いま、「集団自決は軍の強制」の記述回復を求める沖縄県民の声と行動に応え、連帯する反戦・平和運動を強めていこうと、よびかけた。

デモは毎年、寒さの厳しい中でのとりくみだったが、今年は2日前の大雪とは打って変わって小春日和というか、久しぶりに気持ちのいいデモとなった。2・11集会もまだ全国各地でとりくまれているが、デモをおこなっているのは私たちの京都集会と東京の反天連よびかけの2集会だけだと言うと、少し寂しいものを感じた。残念だったのは、この日に起きた沖縄での米軍による女子中学生暴行事件を帰宅して知ったこと。集会中に連絡が入っていれば怒りの抗議を京都市内に轟かせていたのに。米軍撤退の闘いを強めよう。

（寺田道男／京都「天皇制を問う」講座実行委員会）

報告◆大阪2.11「日の丸・君が代」ホットライン集会

「建国記念の日」反対！「君が代」不起立解雇を許すな！「日の丸・君が代」ホットライン2008大阪集会が開かれた。集会は今回が9回目。

はじめに、「建国記念の日」に反対する主張を黒田伊彦さん（大阪樟蔭女子大教員・ホットライン事務局）が行った。黒田さんは、01年扶桑社版新しい歴史教科書の記述を引用しながら、「建国神話と公共の規範——皇后美智子の弟橘媛への想いをめぐって」主張を述べた。日本武尊が浦賀水道を渡るとき、波が荒くて船を進めることができないとき、妃の弟橘媛が海に身を投げて海を鎮めて尊を救ったという神話。その感想文の中で皇后美智子は、神話上の人物を民族共通の先祖として扱い、夫を救った弟橘の自己犠牲の行為を美談として評価している。また三島由紀夫は「文化概念としての天皇」の復活を主張し、天皇と軍隊を栄誉の絆でつないで置くことの必要を説いた。中教審は教育再生会議の第3次報告を受けて、道徳の教科教化を政府に一任した。このように彼らは、国民は国のために何をすべきか、を強調する。しかし黒田さんは、国は国民のために何をしなければならないか、を今こそ問うべきだと述べた。

続いて、07年12月大阪高裁で判決が確定した枚方スミ塗り裁判の報告。03年の卒入学式で不起立した教職員の氏名と理由の調査が行われた。この裁判は、市の個人情報保護条

例違反だとして住民が提訴（03年6月）し、その後不起立教員が提訴（05年2月）したものである。大阪高裁は、この調査が思想調査に当たり違法であると判断した。思想良心の自由のために全国で闘っている仲間に大きな励ましになることは間違いない。

この後、東京の根津さん・河原井さんたちへの支援のアピール、靖国合祀取り消し訴訟の原告になった松岡さんの報告、京都市教委が「教育改革パイオニア実践研究事業」委託費を支給したのは給与の二重払いだとして前教育長に7,100万円の損害賠償を命じた判決の報告、東豊中高「君が代」裁判の報告、学テ反対運動、新勤評反対訴訟の報告が続いた。

最後に、田中伸尚さん（岩波新書『日の丸・君が代の戦後史』の著者）が、「法制化8年、精神の自由への想像力」と題して講演した。国旗国歌法には強制力はないが、法の効果が現れ、権力による強制の中で組織が後退しく（私）が主人公として前面に出てきた。屈辱の服従・不服従と絶えざる問い、せめぎ合いを継続しながら、主要な舞台は学校から法廷へ。国民国家再編過程での個人の自由と国家の関係を考える契機を与えている。画期的だった枚方の取り組み。抵抗のスタイルは豊かになった。その影響は神奈川へと波及するだろう。一つ追加すれば、子どもたちの声が聞こえなくなっていることだ。

（齋藤郁夫／大阪教育合同労組）

報告◆2.23立川反戦ビラ入れ裁判——4年目も大がんばり集会

2004年2月27日の立川反戦ビラ弾圧から4年。一体何本の原稿を頼まれ、何本の原稿を書きに来たのだろうか。一番密度が濃かったのが逮捕直後。救援活動の忙しさもヒトシオだったが、「頼まれた原稿は全部書こう」と心に決めて断らなかった。あれから4年。今年の集会後にも原稿依頼が3本あった。それだけたくさんの人が裁判に注目してくれているということの証左だと思う。本当にありがとう。私たちのような小さな地域の市民団体も、大きな弾圧の前で孤立しなくてすんだ。今年は多分最高裁判決の出る年になるだろうが、勝っても負けても弾圧の不当性は揺るがない。そんな世論も広く作り出せたと思う。

2月23日には、その4周年にひっつけた上記タイトルの集会が立川でもたれた。参加は105人。少々狭い会場であったため、熱気で溢れる結果となった。

メイン講演はジャーナリストの青木理さん。青木さんはオウム事件当時に共同通信の警視庁公安担当記者であった。公安担当をやめた後に「日本の公安警察」という著書を書き、警察関係からは総スカン。共同通信からも総スカンになってしまった。青木さんによると、戦後日本の政治警察として誕生した公安警察は、警察の中でも最も中央集権制が高い部署という。自治体警察の建前もなんのその、人事も力ネも情報も中央の警察庁警備局がにぎっている。だから所轄の中では、署長でも公安の仕事は把握しきれないという。また、規模も

大きい。青木さんが記者当時、東京の警視庁公安の刑事は700人位いたという。殺人などの凶悪犯罪を担当する「花の」捜査一課が300人。現在は公安も人員が減っているというが、日本警察の公安偏重は明らかだ。

ご存知の通り、公安警察の手法は、「事件解決より情報収集」「でっちあげも含めた組織破壊」を目的にしている。「情報収集」のためには時には爆弾事件の犯人でも泳がし、その「情報」を背景にした得意技は「見込み捜査」。まったく後ろ暗い人たちである。

講演のあとは、被告の一人さっちゃんが歌を歌い、上申書の朗読をした。ここからは、いわゆる「ビラ裁判」の被告たちによる怒涛の連帯アピール。国公法ビラ裁判の堀越さん、板橋高校ビラ裁判の藤田さん、葛飾の荒川さん、さらに国公法世田谷ビラ裁判の宇治橋さんもはじめて立川の集会に参加してくれた。被告の人たちはみな話がベラボウにうまい。荒川さんが高裁で負けて現在勝っているビラ裁判は一つもないが、それでもみな法廷の場での権力との対峙を受けとめながら生きている強い顔をしている。さらに救援連絡センターと国民救援会の「日本を代表する？」二大救援組織からのアピールも頂いた。

やつらは後ろ暗いが、私たちは後ろ暗くない。無罪へむけて、共に歩もう。（井上 森／立川反戦ビラ弾圧救援会）

報告◆2.23我部政明さん(琉球大学)の講演を聞いて

「新設でなく移設、がクセモノです」——琉球大学の我部政明さんが去る2月23日夜、一坪反戦の総会後に講演した。

日本政府によって国民には隠していたことが米国側文書で暴露・報道されると、きまって我部講師の短いコメントが載る。また、岩波の『世界』臨時増刊号に米軍再編について講師の論文が載っている。そこでは日米合意「未来のための変革と再編」は、グアム移転と辺野古基地建設とが両者別々に進められると読める、と書いている。去る2月10日に北谷(ちゃたん)で米兵による中学生レイプが発生、県知事は「グアム移転と辺野古とは切り離すべきだ」と発言した。両者がセットだと沖縄はもう、どうしようもない——という趣旨であろう。それを米国は先刻承知、と講師は考えているようだ。

講師は、今回の米軍再編では「移設費」・維持費が日本負担になっているのがクセモノだと講演した。「新設」だとめだつ。しかし「移設」だと移されるところが負担軽減されるみたいだし、容易に国民も説得できる。

移設でなくても米軍基地施設の改善費なら、反対意見も出にくい。維持のための「思いやり予算」なら、基地の駐留を認めている以上、国民もOKさせられる。

グアムも辺野古も、どちらも移設。実際には新設備が導入される場合でも、ごまかしはきく。企業でもこうした手口が使われているのではないだろうか？

横田への米軍基地集中時の「移転」も、横須賀への空母寄港

も、8,000人の乗員はいわば「移設」だ。新たに施設をつくるわけではない。今回の北谷(ちゃたん)レイプ事件の加害米兵が住んでいた住宅も、家賃が20万円から30万円もするものを「安く」入居できていた。その水道光熱費は日本側負担だった。その家賃も日本側支払だった可能性がある。しかしはっきりとはわからない。

基地のあり方として、レイプなどを「どれだけのコストとして」払われるべきか、あるいは「レイプは何件までがまんできるか」、社会が選択しなければならなくなるだろう。これは基地反対の人々には問題にならないが、基地賛成の国民が多数なのが実態。国民は環境問題と同様に、「負荷の負担」を勘案・あばいひしなければならない。ゼロにしなければならないというのも選択[ゼロ・オプション]の一つだ、と。

この後、講師に質問が相次いだ。

●ドイツでは米軍によるレイプはないという報道はほんとうか？ ●各国での地位協定を比較すると、日本の場合はどうなるのか？ ●米軍再編の進展状況についてはどう考えられるのか？——など。

毎日新聞に、ドイツの駐留米軍(68,000人)について米兵不祥事など「そんな話は聞いたことがない」という記事が載っている。しかし実は統計はないものの、米軍犯罪はある。沖縄を米兵は「低く」みているので多発するのだろう、そう講師は答えた。（沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック／吉田）

反改憲ニュースクリップ

08年2月14日～3月5日

改憲派、超党派の再結集へ

【2月14日】〈憲法審議会〉自民党の憲法審議会（中山太郎会長）は公職選挙法の選挙権の年齢や民法の成人年齢を「18歳以上」まで引き下げることの是非について、検討を始めた。昨年5月に成立した国民投票法の投票年齢が「原則18歳以上」と定められたことに伴い、与党として環境整備を進める狙い。会合では衆院法制局から、世界で選挙制度がある189カ国のうち、約9割にあたる166カ国の選挙権年齢が「18歳以上」であることが報告され、出席議員から「日本も世界標準に合わせるべきだ」との声が出た。また、「早く国会に憲法審査会を立ち上げ、憲法改正の内容についても議論すべきだ」との意見も出された。

【2月15日】〈保守再結集〉安倍前首相が自民党の中川昭一元政調会長が会長を務める勉強会「真・保守政策研究会」に入会し、国会内で開かれた会合に出席。研究会には、平沼赇夫ら保守派の国会議員が参加。安倍の入会で計80人となった。この日の会合では、政府がめざす人権擁護法案の今国会再提出反対で一致。

【2月16日】〈米軍再編〉米軍普天間飛行場の移設問題で、防衛省は移設先とされる沖縄県名護市辺野古崎一帯の環境影響評価について、予定していた今月中の調査着手を断念。着手の前提となる県の同意手続きが間に合わないうえ、米海兵隊員が女子中学生を暴行したとして逮捕される事件が起き、基地への県民感情が悪化したため、とのこと。

【2月18日】〈サミット警備〉政府は7月に北海道洞爺湖で開かれるG8サミットの期間中、会場を中心に飛行禁止空域を設定し、ハイジャックされた民間航空機が会場の各国首脳を標的にする航空テロを警戒することを決めた。飛行禁止空域は半径約55キロ。航空自衛隊の空中警戒管制機や海上自衛隊のP3C哨戒機、国内のレーダー網を動員する。昨年のハイリゲンダム・サミットを控えたドイツでは、04年9月に民間機を撃墜できるように連邦議会が「航空安全法」を改正した。だが、06年2月、ドイツ憲法裁判所は防衛軍の国内への投入は災害や重大事故の場合に限られ、人間の尊厳などを定めた憲法に違反すると判断した。

【2月20日】〈「冤罪」問題〉被告全員が無罪となった鹿児島県議選の選挙違反事件を「冤罪と呼ぶべきでない」と発言した鳩山法相について、社民党の福島党首と国民新党の亀井静香代表代行が罷免を要求。共産党もすでに罷免を求めている。福島氏は「裁判員制度が始まるなかで冤罪を生まないことが極めて重要なのに、大臣がこれでは困る。無知を露呈している」。亀井氏は「極端に人権感覚がない。人間失格と言ってもいい」と述べた。

【2月22日】〈少女暴行事件〉在沖縄米海兵隊員による少女

への暴行事件を受け、日本政府と在日米軍は米兵に基地外での居住を認める際の許可基準や基地外での居住者数などを米軍側から日本側に通知するほか、性犯罪防止を含めた米兵への教育プログラムを見直す方向。日本側が求める、日本の警察と米軍による基地外での共同パトロールは、県警関係者に「容疑者の身柄を日本側が確保できるのか」という懸念がある。このため米側は、身柄の拘束権限を持つ米軍警察（MP）が加わらない方向で検討しており、引き続き日米間で調整する。犯罪の抑止や監視などを目的とする防犯カメラも、米軍人の利用が多い繁華街などに地元自治体の了解を得て設置。

【2月26日】〈会場使用拒否問題〉日教組の教育研究全国集会をめぐり、グランドプリンスホテル新高輪がいったん予約を受けた会場の使用を拒んだ問題で、ホテル側が会見を開いた。宿泊客やホテル周辺への「安全」を重視したというのみで、会場使用を認める司法判断に従わなかったことや日教組への謝罪はなかった。

【2月27日】〈イージス艦衝突事件〉海上自衛隊のイージス艦「あたご」と漁船清徳丸の衝突事故当日の19日午前、海上幕僚監部があたごの航海長をヘリコプターで呼び寄せて防衛省内で事情を聴いていた問題をめぐり、石破防衛相が衆院予算委員会分科会で、海上保安庁に無断で事情聴取を行ったことを認めた。聴取は石破氏のほか事務次官、統合幕僚長、海上幕僚長ら4首脳が大臣室で行っていたことも新たに判明した。これまで同省は否定していたが、捜査を受ける側が「密室」で捜査当局に無断で聴取を行っていたことになる。

【2月29日】〈空中給油機〉「専守防衛の枠を超える」と議論を呼んできた空中給油・輸送機KC767の1号機が航空自衛隊に引き渡され配備された。空中給油機の自衛隊への導入は初めて。空自によると、空中給油機は米国やロシア、中国など25カ国が導入している。

【3月4日】〈改憲派再結集〉自民党の国会議員やOBでつくる新憲法制定議員同盟（会長・中曽根康弘元首相）は4日、国会内で総会を開き、新たな役員として、民主党の鳩山由紀夫幹事長や国民新党の亀井静香代表代行らを顧問に、民主党の前原誠司前代表らを副代表に迎え入れた。昨年、それまでの「自主憲法期成議員同盟」を衣替えして活動を始めたが、今回は超党派に枠を広げ、改憲機運の盛り上げをめざす。総会で中曽根氏は「改憲のような国家的大問題は超党派で決めていかねばならない」とあいさつし、安倍前首相も「改憲は私のライフワーク」。民主党を代表して田名部匡省参院議員も「改憲はここ数年で決着すると決めてやらない」と呼応した。

【3月5日】〈PKO問題〉町村官房長官はスーダン南部での内戦の和平合意を受けた平和維持活動（PKO）に関連し、「すでに3億ドルの資金協力を行ってきたが、人的協力はほとんどしていない。自衛隊を含む人的協力がどのような形で可能か、スーダン政府、関係部局と話し合っていていきたい」と述べた。スーダン南部へのPKOをめぐるのは、外務省では「PKOを派遣できる地域はないか検討しており、南部も除外はしていない」としている。ただ、防衛省などに現状では安全確保が困難だとして派遣に否定的な意見が根強く、政府内の調整は進んでいない。

私も一言 60

降旗節雄 (筑波大学名誉教授)

近代国家と近代軍備は消滅する

日本も普通の国になるべきだ。普通の国は軍備をもつ。従って日本も軍事国家たるべきだ。最近流行の三段論法だが、アナクロニズムだろう。近代国家は絶対主義によって作られ、資本主義はこれを譲りうけて自己の外皮とした。従ってリベラリスト・スミスも国は最小限度の軍備をもつべきだとした。

だがこの原理の通用した時代は20世紀の前半で終る。1970年代、資本主義は変質した。世界中の貨幣が金から切り離され、国家的保証を離れて世界を浮遊し、モノ・ヒト・

カネは自由に国境を超える。グローバリゼーションである。近代国家のバリアは急速に低下し、無意味化しつつあるが、同時に国家的枠組みから解放された地域は自立を主張しはじめる。コンボ、チェチェン、バスク、北アイルランド、モンゴル、台湾などである。左翼が人間の自立をめざす党派であるとするれば、北海道や沖縄の日本国からの離脱を主張しない左翼などニセモノだ。

そしてまたグローバリゼーションの時代に国家的武装が何になる。近代日本国家の内部で、山梨県や神奈川県が軍事化をすすめるのが馬鹿馬鹿しいとすれば、今や国家の武装化がナンセンスな時代になったのだ。考えて見れば、日本の新憲法は、グローバリゼーションのゆきつく先を予見してつくられたのだ。誰が考えたかしらぬが、「超先見の明」というべきだろう。憲法改悪、要するに九条改正に私は反対なのだが、その反対理由は右のような資本主義への歴史認識による。

論理を欠く信条的平和主義には賛同し難い。論理なしにはどんな運動も成功しないからだ。ロゴスが全てと聖書もヘーゲルも言った。

集会・行動情報 3/14～3/26

▶ **3/14 (金) 横浜事件再審裁判・最高裁判決**◆ 13:30～◆傍聴券は出ますが、先着順か抽選かまだ決定しておらず、前日午後までには決まるとのこと。▶問い合わせ先：最高裁判所：03-3264-8111

■ **反住基ネット連絡会連続講座 第13回**◆ 18:30～◆水永誠二、有光章治、樋口大貳、宮崎俊郎、原田富弘◆文京区民センター3C (都営三田線春日駅すぐ) ◆500円◆主：反住基ネット連絡会 (03-5155-4765)

▶ **3/18 (火) 河原井さんに「職務命令」を出すな！ 八王子東モーニングアクション第2弾**◆ 7:30～11時頃◆河原井さんの勤務校・八王子東養護学校の校門前でアピール

▶ **3/19 (水) イラク開戦5周年抗議！ 大阪集会**◆ 18:30～◆扇町公園 (地下鉄扇町駅、JR天満駅下車すぐ) ◆特別報告：山内徳信 (参議院議員) ◆主：大阪平和人権センター (06-6351-0793)、しないさせない戦争協力・関西ネットワーク

■ **根津さんに「職務命令」を出すな！ 南大沢モーニングアクション**◆ 7:30～◆根津さんの勤務校・南大沢学園養護学校の校門前でアピール (南大沢での行動ののち、河原井さんの八王子東養護学校卒業式 (高等部) 包囲行動)

▶ **3/20 (木・休) イラク攻撃からもう5年！ STOP THE WAR 3・20国際行動 in なごや**◆ 13:30～ 第1部：オープニング&ピースウォーク (白川公園／地下鉄伏見駅徒歩5分、名古屋市科学館裏側／雨天決行)／17:30～ 第2部：イラク報告会 (名古屋YWCA／地下鉄栄駅徒歩3分、愛知県芸術文化センター向い) ◆主：同行動実行委員会 (問：有事法制反対ピースアクション 052-731-7517 ほか)

▶ **3/22 (土) 武力で平和はつukれない イラク占領、まる5年 WORLD PEACE NOW**◆ 13:00～／デモ14:30～◆港区芝公園23号地 (地下鉄三田線御成門駅徒歩3分) ◆

連：許すな！ 憲法改悪・市民連絡会 (03-3221-4668)

▶ **3/23 (日) 沖縄・米兵による性暴力事件に抗議する緊急行動**◆ 15:00～◆水谷橋公園 (地下鉄京橋駅、銀座一丁目駅ほか) ◆デモ出発 15:30◆主：同実行委 (連絡先：沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック 090-3910-4140)

■ **「君が代不起立」(英語字幕版) 大阪上映会**◆ 上映 18:30～20:00／ディスカッション 20:10～21:00◆ Salon de AManTO (地下鉄中崎町、<http://yura-ism.com/amanto/map.html>) ◆参加費無料 (1ドリンク・オーダー) ◆主：「君が代不起立」上映プロジェクト (090-3713-3538)

▶ **3/26 (水) VIDEO ACT！ 上映会「君が代不起立」～「君が代」斉唱！ 立たないとクビ？**◆ 19:00～◆上映作品『君が代不起立』(2006年／87分／DV)、根津公子 (予定) 佐々木有美、松原明◆東京ボランティア・市民活動センター (東京・飯田橋セントラルプラザ10階／JR中央線飯田橋駅下車徒歩1分) ◆500円◆問：ビデオアクト上映プロジェクト (03-5261-2229)

第2次ヨコスカ住民投票を支援する市民基金

▶ 横須賀での「原子力空母母港化の是非を問う住民投票」の実現のために6万名を目標に署名活動が始まりました。この署名活動の支援のための基金を呼びかけます。

▶ 目標額200万円 ▶ 賛同金1口1000円

▶ 口座番号 00200-2-43314

▶ 加入者名：ヨコスカ住民投票を支援する市民基金

▶ 賛同金は全額、横須賀の「原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会」に届けます。

▶ 連絡先：メール yokosuka_siminkikin@hotmail.co.jp

Fax 045 (788) 0838